

# 平成30年度学校自己評価表(西武学園文理小学校)

令和元年6月

目指す学校像	英語のシャワーでグローバルなトップエリートを育てる。 (様々な体験学習を通して、バランスのとれた人格形成を目指す。)
重点目標	「こころ」「知性」「国際性」の3つの特質を身につけた児童の養成を重点とした授業展開、生活指導体系を確立する。

達成度	A	ほぼ達成(80%以上)
	B	概ね達成(60%以上)
	C	変化の兆し(40%以上)
	D	不十分(40%未満)

学校自己評価						学校関係者評価
年度目標			年度評価			意見・要望など
No.	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況	自己評価	次年度への課題	
1	こころを育てる 人間性あふれる心豊かな子どもも育てる	学校生活の中での、「あいさつ」を習慣化させる。登下校、授業の開始、終了時はもちろん、廊下などでも積極的に挨拶することを心掛ける。	授業の開始、終了時には満足のいく挨拶ができていた。保護者や来客に対しても気持ちの良い挨拶ができる児童が増えつつある。	A	基本的な生活習慣の中でも、挨拶は最も大切であることを意識させ、自ら進んで挨拶できるよう心掛けさせる。 縦割り活動(登下校・清掃・休み時間)を継続し、下級生を思いやる気持ち、上級生を敬う気持ちを育てるよう工夫する。 登下校中のマナー、特にバス・電車内等での公共マナー教育についても機会ある毎に取り組み、一般の方への気遣いができるよう指導を徹底したい。	全体的に明るく元気よい挨拶がきているが、一部の児童は声が小さな挨拶となっている。保護者や来客に対しても気持ちの良い挨拶をしてくれる児童が多い。 一方、校外でのマナーについては、改善した方がよいと思われる点がある。一部の児童について登下校のバス・電車内で騒ぐなど、マナーが守れないことが見受けられた。駅指導、ホームルーム指導などを通じてこの点を重点課題として取り組んで欲しい。
		優しい心と感謝の気持ちを育む。特に行事や体験・縦割り活動・ペア活動・通学班活動などを推進し、異学年間の交流を通して、協力、思いやり、優しさなどの心を育成する。	縦割り活動(登下校・清掃・休み時間)、学校行事を通して、上級生に自覚や責任感が育ちつつあり、下級生から頼りにされている様子が見られた。	A		
児童朝会を通して、生活目標達成の表彰、個人努力を認められるように表彰する機会を設ける。		全校朝会での表彰を楽しみにし、次回も頑張ろうという意欲とそれを称賛する雰囲気認められた。	A			
	文理小学校の一員として誇りを持って行動できる児童を育成する	本校卒業生の講話などを取り入れ、文理小学校の児童としての誇りと、先輩への憧れ、そして夢を持ち、それに向かって一層の努力をしようという意欲を育てる。教育内容の充実と、情報の開示およびわかり易い広報活動に努め、保護者の信頼と理解を深めると共に、協力が得られるようにする。	中学・高校生との交流活動の一つとして、高校理数科の生徒によるプログラミング講座を実施した。また、HRでの活動や毎週行われる校長講話などを通じて、学校生活において必要な文理校生としての誇りを伝えており、自覚をもって行動できる児童が増えた。	A	中学・高校のプログラミング講座を引き続き実施し、先輩の姿を将来の自分と重ね合わせることで、将来の自分を見つける機会としたい。また、校長講話、文理高校卒業生の方からの講演会も継続し、現在、そしてこれからの自分を考えるよい機会としていきたい。	多くの学校行事が保護者や地域の方々の協力で成り立っていることを実感している。教職員だけでなく地域の方々やサポートしてくださっていることは児童にとってもよい学びにつながっている。 また、高校生や社会人との交流活動、校長講話など意義のあるものであり、今後とも継続して欲しい。
2	知性を育てる 学ぶことの喜びを体感させ自ら学び考える習慣を身につけさせる	学ぶことの楽しさを実感すると共に、基礎学力の徹底を図る。文理中学校への進学に足りる十分な学力と思考力を養う。また、プレゼンテーション能力も身に付ける。	体験学習を通して学ぶことの楽しさを伝えてきた。英語検定、漢字検定、論語検定を実施するとともに、学年を超えた英語・算数オリンピック等を実施し、学習への動機づけに効果を上げた。	A	知性を育てることの実践に向けて、豊かな学力の構築、思考力・判断力・実行力の涵養、プレゼンテーション能力の育成、リーダーシップ教育の実践を中心に図ってきたい。 それぞれの活動における課題をより明確にし、その課題を解決して、達成目標に向けて成果を上げていきたい。 教師の授業力の向上に向け、研究授業に加えて、教科内で児童にとって興味関心を引き出す指導について検討するとともに、家庭学習や補習などの取り組みについて見直しを図りたい。	体験学習を豊富に取り入れていることから、学習へのきっかけ作りができているように思える。この体験学習での興味関心が将来の進路を左右することが予想されるので、小学生時代に多くの経験をさせてもらえる環境にあることに満足を感じている。 学力差のある児童に対しての取り組みについて、放課後の補習の充実を図るなどよりきめの細かい指導を期待する。 また、将来、中学、高校に進学した際に、十分に対応できる思考力、プレゼンテーション能力を身に付けさせて欲しい。
		学力向上を図るため、授業や家庭での学習指導の内容の充実を図る。チームティーチングの実施や不得意科目をもつ児童への対応を心掛ける。	算数においては、チームティーチング、習熟度学習を実施し、効果を上げた。不得意科目をもつ児童においては放課後の補習などを通して改善を図ってきた。	B		
		教師間の授業見学等を実施し、教師が指導力向上を目指して切磋琢磨する校風を育て、教師のスキルアップに努める。	研究授業を実施することで、指導力を向上させるきっかけを作った。教員研修の機会を増やすよう検討してきているが、時間調整が困難で思うような実施には至っていない。	A		
	小・中・高12年一貫の教育指導体制を確立する	中学・高校との情報交換および協力態勢を密にし、中高の生徒の実態や本校卒業生の様子や傾向を把握し、小学校における今後の指導に生かすなど、12年一貫の教育指導体制の確立を図る。	中学、高校生が来校し、クラブ活動の指導などにあたる機会を作ってきた。12年間の一貫教育については十分な共通理解が図られていないことから、小中高連絡会を発足させ、連結における諸問題などについて議論し、情報共有に努めた。	B	12年間の一貫教育をより充実させるために小中高連絡会議を定期的に開催するとともに、各教科、各分掌でも中学・高校と連携をとり、情報共有したい。この連絡会議をもとに、中学進学を見据えた授業内容を教科にて検討したい。 特に英語については、小学校から中学校の授業へとスムーズに連結できるよう情報共有とプログラムの見直しを図りたい。	小中高12年間の教育の流れを踏まえ、小学校から中学校へ入学した際に今まで以上のアドバンテージが持てることを期待したい。 特に、本校が推進する英語教育と理数教育については期待が大きく、さらなる改善を期待している。演習や放課後の補習などを充実させることで今まで以上に児童たちの学力を伸ばして欲しい。
3	国際性を育てる 真の国際人になるための基本的な能力と価値体系を養成する	英語の授業や音楽・図工・体育の授業の中での英語(文理イマージョン授業)の充実、日常生活の中での英語のシャワー、海外研修をはじめとする外国人との交流や文化の交換等を通して、国際人としての素地を養う。	英語の授業も、文理イマージョン授業(英語による音楽・図工・体育)も歴史を重ね、大きな成果をあげてきた。英語を通して交流、意見交換できる児童が増えつつある。	A	外国人英語講師と接する機会は多く、リスニングおよびスピーキング力が高い児童が多い。引き続き、英語検定への合格者を増やすための対応をしっかり取り組みたい。また、よりバランスの取れた4技能英語教育を目指し、高学年におけるReading/Writingの授業強化などを通じて、さらなる英語力の向上を図りたい。 さらに、和食作法教室、百人一首大会、論語講座、農業体験などを通じて、伝統的日本文化の理解と習得を目指したい。	英語検定試験に対して、多くの児童が前向きに挑戦している。中には2級、準2級に合格している児童がいることから、英語教育の成果が表れていることが伺える。 また、将来、世界で活躍することを踏まえると、日本の伝統文化やマナーを学ぶことの意義は大きい。 さらに、イギリス短期留学やアメリカ研修に参加した後の様子を見ていると、自分のことは自分でできるようになった。単に英語を話すための研修ではなく、人として成長につながる短期留学、研修旅行であると感じている。
		海外研修を通して、語学力の伸長や異文化理解を深める。国際交流を進める中でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の伸長を図る。	英国短期留学では現地で多国籍児童と積極的に交流する姿が見受けられた。米国研修では同世代との文化交流を通し異文化を学ぶ機会を設けた。	A		
		日本人としての自己意識を確立するために、日本の伝統的文化を理解し、習得するための体験学習(礼儀作法等を含む日本食のマナー体験、茶道研修、書き初め競書、おもちゃつき大会、百人一首大会、短歌づくり、論語検定等々)の充実を更に進める。	学校行事に日本の伝統文化を取り入れ、全児童が体験できるように工夫した。将来国際人として活躍するには日本の伝統をしっかりと身に付ける必要があることを児童に伝えた。	A		